

和歌山県田辺湾に繫留された小型船舶に付着したミドリイガイ

Shin KUBOTA: *Perna viridis* attached to a small mooring boat
in Tanabe Bay, Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信

昨今、和歌山県田辺湾で、ミドリイガイ *Perna viridis* がムラサキイガイ *Mytilus galloprovincialis* よりも個体数が圧倒的に多くなっているが (久保田, 2007)、今回、ミドリイガイが田辺湾内で繫留された小型船舶に数多く付着した例に遭遇したので報告する。

約0.8t の FRP 製の小型船舶1艘が、白浜町桟橋で約半年間繫留された後に、白浜町瀬戸漁港で船底の清掃のため2011年6月初旬に岸壁に引き上げられ、付着生物がかき落とされた。その中にムラサキイガイが少数と多数のミドリイガイがみられた。2種の二枚貝とも付着後1年以内のサイズの小型のもの (ミドリイガイ: 前後軸長20mm・30mm) だった (図1)。ミドリイガイは田辺湾では、通常、筏のフロートやロープに付着するが (久保田, 2007, 2010)、今回、小型船舶の FRP 製の船底にも多数が付着していたことから、地球温暖化に伴って多くの基質に付着して、ますます個体数が増加していくものと推察される。



図1 和歌山県白浜町桟橋に約半年間繫留された小型船舶に付着していた小型のミドリイガイとムラサキイガイ (右上の2個体がムラサキイガイで残りはミドリイガイ: 死亡後撮影)。

京都大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所
(〒649-2211 西牟婁郡白浜町459)
(e-mail: shkubota@medusanpolyp.mbox.
media.kyoto-u.ac.jp)

引用文献

久保田 信. 2007: 和歌山県田辺湾およびその周辺海域におけるムラサキイガイ個体群の激減とミドリイガイの増加. 南紀生物, 49 (1), 81-82.

———. 2010: 和歌山県白浜町に所在する“京都大学瀬戸臨海実験所北浜”へ最近の43ヶ月間 (2007-2010年) に打ち上がった熱帯系の2種の二枚貝. 瀬戸臨海実験所年報, 南紀生物, 23 (1), 67-69.